

タクシーでの日常会話 ー韓国の場合ー

Sasaki Akino



(Drawn by Akino SASAKI)

私は1998年3月から1年間、韓国の釜山市で日本語を教える仕事をしていました。韓国で車を持っていませんでしたから、バス、タクシー、地下鉄をよく使いました。一番よく使ったのは、タクシーでした。

韓国に行ったばかりのころは、韓国語が全然わからなかったのでタクシーの運転手さんと話ができませんでした。韓国語が少しわかるようになってから、「タクシーの運転手さんはだいたい同じ質問をする」ということがわかりまし

た。

まず、最初に「日本人ですか」と聞かれます。私は「はい、日本人です」と答えます。その次の質問は「学生ですか」です。私は「いいえ」と答えます。そうすると「何をしていますか」と聞かれます。私は「日本語の講師です」と答えます。ここまでは、初めて会った人の会話です。

次の質問は「給料はいくらですか」でした。私は「えっ！初めて会った人に給料の質問をするの？」と驚きました。私は「高いですよ」と答えました。タクシーの運転手さんは「はっはっは！」と笑いました。どうやら、本当の給料は答えなくてもいいようです。

次の質問は「結婚していますか」です。この質問にもちょっと驚きました。私はそのとき結婚していなかったので「いいえ」と答えました。「結婚していない」と答えると「恋人はいますか」と聞かれます。この質問に「いいえ」と答えると、運転手さんは「韓国でいい人を見つけましょう」と言います。

とにかく、タクシーの運転手さんはよく話しました。タクシーの中は小さな韓国語教室でした。

初めて韓国へ行ったのは1998年でした。20年後の2019年にソウルへ行ったとき、タクシーに乗りました。タクシーの運転手さんと話すのを楽しみにしていましたが、何も聞かれませんでした。個人的なことを聞かれるのが嫌だったときもありましたが、何も聞かれないのはちょっと寂しいです。

(754字)

(2020.4 Written by Ryozo SASAKI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 -4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.